

広土会新聞

第17号

2013.3.1 発行

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

巻頭言 「新たな躍進の年に」



広土会会長
島 重章

広土会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶びを申し上げます。大学の方は昨年度も新たな卒業生を100%就職達成の中で送り出すことができました。併せて、彼らが新たな広土会のメンバーとなってくれることを期待しています。

さて、これまでの日本経済は、激動する日本社会の中であって、社会資本整備への政策と公共事業への批判が高まる中で、会員の皆様の多くが先の見えない立ちを覚えてこられたのが現状ではないでしょうか。私たちの周りには、日本全体がさらに良き社会資本整備の充実をめざし、世の中を構築して充足率を見せてきましたが、維持管理を忘れた批判が優先し、PR効果の無いものは忘れ去られてきたことへの現実を危惧しておりました。

日本の国土は、その位置、地形、地質、気象などの自然条件から、地震、台風、豪雨、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっています。世界全体に占める日本の災害発生年間割合は、マグニチュード6以上の地震回数が22.9%、活火山数7.1%、死者数0.5%、災害被害額16.0%（以上は、H20以前のデータである）など、世界の0.25%の国土面積に比して、非常に高くなっています。H23.3.11の東日本大震災は、日本国土の沈没すら思わせずにはおれないほどの大惨事を引き起こし、社会資本の脆弱性を見せつけられたのであります。そのなかであって、人間の力の限界すら感じさせるような大きな自然災害の発生は、災害列島の上に私たちは住み続けていることを日本国民すべてが実感する出来事でありました。

社会資本整備の中で完成した構造物は、近年の設計施工の技術力とともに素晴らしい構築物が出来るようになったのであります。しかしながら、耐用年数に頼りすぎた構造物は、その劣化進行が伴う中での維持管理がいかに大切かを、必要事項として取り上げては来なかったものであります。

H24.12.2に発生したトンネル事故は、社会資本整備の中で構築された構造物の劣化が要因となる事故であるといえましょう。道路防災点検は、昭和43年の飛騨川バス転落事故以降、主要幹線道路を主として、特に維持管理に重きを置いてきたといえましょう。しかしながら、近年の構造物劣化は、道路に限らず発生しています。例を挙げますと、橋梁は平成19年の米国高速道路橋梁の落下事故を契機に、全国橋梁の劣化状況が点検項目として明らかにされてきました。また、全国の上下水道はヒューム管路の劣化、主要管路の経年劣化など、全国的に明らかにされてきました。それらの対応策は緊急を要する対処のみで現在に至っている中で、昨年度発生したトンネル事故は社会的にも大きな影響を与えたのであります。

これまでに述べてきました事例はほんの一部であります。私たちの生活が、安全安心である世の中を求めていく以上、土木技術が社会資本の最先端であって、これまでの旧体制からの脱皮と、新たな躍進が必要となります。近年の10数年間の中で土木社会が変革を続けてきたことは、会員の皆様方も実感しておられることでしょう。これからは、世の中の期待を受けた社会資本の新たな整備構築が要求されてくると共に、土木技術力が他の産業以上に高い評価を求められてくるでしょう。

大学状況は皆様もご存知のように、大学へ入学する18才人口の低減と共に土木に対する進学希望者の減少を感じざるを得ません。これまでの社会資本整備が、残念ながら若者たちの目に触れることのない構造物ではなかったかと、またそれが世論に現れても批評の対象になってしまっていないだろうか、と考えさせられることが多々あり、若者たちが魅力を感じることでできる土木界が今後どのように形作られるのか、これからの大きな課題であると思われまします。

広島工業大学土木工学科は、世の中の大波を受けて学科名称が大きく変化してまいりました。現在は都市デザイン工学科と称しますが、ここでは土木系の教室と呼ばさせていただきます。この土木系教室におきましても学科を構成してきました教員のうち、初期の卒業生から関わってきました5名の教員がこの1、2年の間に定年（教授68

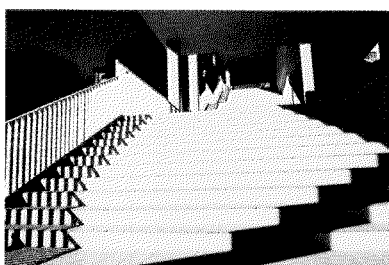
歳）退職を迎えました。今後は新たな教員、若い教員で構成された土木系教室が教育及び研究、学科及び大学運営を行っていきます。若い新たな力は、広島工業大学の中にあって、これまでの学科を継承して新たな躍進を計っていくものと期待しております。

この新たな躍進は、広土会会員の皆様との連携が大切な要因になると考えております。

広島地域における土木系進学希望者の増加を計っていくためには、広土会としての今後の役割が期待されましょう。その一例をあげますと、進学希望者を確保するためには、会員諸氏が母校での活動を展開することが効を奏するでしょうし、在学生と企業との関係は、企業懇談会などを通じて会員諸氏が学生との接触を図る機会を持つことが必要でしょう。更に卒業生の就職活動は、各企業と土木系教室の関係が有効であり、情報交換を図るための会員諸氏との連携が必要になるであろうと考えております。

以上に述べましたように、土木系教室の構成教員は、初期の卒業生会員の皆様とは面識の薄い関係にあると思われます。広土会が45周年を迎える今年度は、その年数が時間の経過を物語っております。これまでに卒業生および教員が絆を保ち、継続してこれましたのは広土会の大きな力であり、特に卒業生の各位が大学との絆を大切にしてくださったからであります。新たな躍進の年を迎えるにあたり、今後の広土会運営は、土木系教員と会員各位の新たな絆を大切にし、若い人たちの引付ける魅力あふれる広土会に変身することが更に必要ではないかと考えています。

終わりにになりましたが、広土会会員の皆さま方のますますのご発展とご健勝を祈念していますと共に、今後とも、広土会へのますますのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新任のあいさつ



就任のご挨拶

都市デザイン工学科
教授 熊本 直樹

「熊本直樹」です。2012年10月に着任しました。専門は地盤工学です。よろしくお願い致します。

私は修士課程修了後、三菱重工業（株）に入社し、以後31年間三菱重工業（株）の広島研究所に、その後7年間三菱重工業（株）の子会社に勤務しました。

三菱重工業（株）に入社後は、海洋土木に関する研究開発から始まり、主に地盤関係の研究開発や事業所支援に従事し、その後徐々に担当分野が広がり、最後は研究室の管理・運営を担当しました。

所属した研究室の技術内容は、鋼構造、コンクリート工学、海岸工学、地盤工学などであり、大学でいえば「土木工学科」のようなものでした。研究室の業務の中には鋼製煙突のような、学会でいえば建築学会が扱う製品も一部入っていました。地盤工学だけでなく、土木・建築工学全体について、しかも研究から現場まで、さらに国内から海外まで、幅広く貴重な経験をしてきたと考えています。

仕事では七転八倒、苦しみことも多々ありましたが、製品（構造物）が完成したときの感激や達成感を忘れることができません。自己満足ですけれど。

広島工業大学では経験してきた業務完遂時の感激を学生に伝え、担当する地盤工学だけでなく、実業界で学んできたことも学生に伝承していきたいと考えています。例えば、仕事は真心を込めてきちんと行うこと、職場ではコミュニケーション（報・連・相）が重要であること、など。

昨年11月28日に広島市内で開催された、広土会の忘年会に参加させて頂きました。広土会の皆様が企業最前線や役所などで活躍されており、大変心強く思いました。

私事ですが、重工での職場の仲間にも広土会メンバーが何名かおられ、技術計算ツールの開発、数値解析、土質実験、現地計測など多方面に渡っ

て業務を支えてくれました。感謝しています。

引き続き優秀な卒業生を社会に送り出すことができるよう、教育及び研究に邁進していく所存です。

現在私は就職委員を担当し、学生の就職のお世話をさせて頂いています。学生の就職活動についてもさらなる御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

退任のあいさつ



39年間、お世話になりました

都市デザイン工学科
教授 中山 隆弘

建設業界にとって極めて厳しい環境下ではありますが、広土会の皆様におかれましてはそれぞれの立場で存分にご活躍のこととお喜び申し上げます。

1974年（昭和49年）4月に本学に着任して以来、あっという間に39年が過ぎて、本年3月末で本学を定年退職することに相成りました。その間、多くの卒業生の方々にはいろいろとお世話になり、本紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。

振り返って見ますと、大阪大学の助手に採用された1974年（昭和49年）の12月に、学会発表のために宿泊した東京のホテルで、恩師より突然、「先日、広島工業大学の桜井先生が来られ、『構造力学を担当して貰える方を大阪大学から迎えた』と仰っておられますが、どうしますか？」と言われ、正直なところ驚きを隠せず、「数日、考えさせて下さい。」とだけ回答したことを鮮明に覚えています。

数日間考えた後、「研究のアクティビティが大阪大学の教官の三分の一程度になっても、それはそれで仕方ない。同じ四年生の大学だから、大学の雰囲気等が大きく違うことはないだろう。」と本学にお世話になる決意をしたものの、その予想は大きく外れ、着任当初は大いに戸惑いました。

しかし、勿論そんなことで講義の準備を怠ることはできず、着任してから2、3年は、講義ノートの作成にかなり多くの時間を割いて、全力で講

義に臨みました。今思えば、実になつかしい期間だったように思います。

その甲斐もあってか、多くの優秀な学生が構造力学に興味を持ってくれ、特に着任して三年目の六人は、全員が国立大学の学生に勝るとも劣らない努力で卒業研究に励んでくれました。さすがに全員がそのような姿勢で卒業研究に取り組んでくれたのは他の年度には無く、その証として、教授会の席で当時の前川 力学長から本学に大学院を設置することに対する意見を求められたとき、「現在、私の研究室に所属している卒研生全員が、もし本学に大学院があればこのまま進学して研究を続けたいと言っています。」と自信を持って発言することができました。それほどこの年の6人には向上心が備わっていたように思います。

ただ、早く大学院をという願いはなかなか適わず、大学院工学研究科修士課程が設置されるまでにはその後10年以上の長い時が必要で、1989年（平成元年）になりやっと電子工学専攻、機械工学専攻と共に土木工学専攻がスタートしました。しかし、第1期生は僅か2名で、一人は構造研究室出身、もう一人は後日、母校の中央大学に転出された檜山先生の計算力学研究室出身でした。テーマこそ違え二人は切磋琢磨し、いずれも査読付き論文となるレベルの修士論文を書き上げてくれました。

そして、その7年後となる1996年（平成8年）には修士課程の上に博士課程知的機能科学専攻も増設され、どうにか大学としての形ができました。幸いにも設置早々、大阪大学で共に学んだ坂手道明氏が本専攻へ入学してくれ、研究室のメンバーの多大な協力を得て、3年後に坂手氏が本専攻の1期生として博士の学位を授与されました。私なりに広島工業大学の歴史にひとつのマイルストーンを残せたと考えていますが、当時の学長であった川崎 尚先生の暖かいご支援を忘れることができません。考えてみますと構造研究室はこの頃がピークで、博士課程1名、修士課程8名、学部生8名の体制は、正に私が描いていた理想に近いものでした。

それに比べ特にこの数年間は、かなりの学生に向上心を感じることができず、「大学教育では講義室における講義内容が極めて肝要である」と確信している者にとって非常に辛い思いを抱いて過ぎてきました。確かに私学は一定数の学生が在

総合建設業



占部建設工業株式会社

代表取締役 占部 誠

本社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

KATO
Construction Co., Ltd.



株式会社 加藤組

〒728-0013 広島県三次市十日市東一丁目8-13
TEL(0824)63-5117 FAX(0824)63-5100
<http://www.kato-gr.com>

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社

栗本

代表取締役社長 古川 幸雄
〒733-0035
広島市西区南郷音7丁目14番20号
TEL (082) 293-8500
FAX (082) 295-8231
【営業所】 岩国市・安芸高田市

<http://www.kurimoto-gr.co.jp>

籍しなければ成り立たない教育機関ではありますが、本学科が当地域にとって無くてはならない存在であり続けるために、関係各位には入学試験制度やカリキュラムの検討を切にお願い申し上げ、退職に当ってのご挨拶といたします。

支部だより



夙川公園の花見

関西支部長
川岡 靖司（14期生）

私は昭和 57 年に広島工業大学を卒業し、日本橋梁(株)に就職して 31 年がたちました。卒業した年の 4 月に広土会関西支部の夙川公園での花見に参加したのですが、シュクガワと読めなくて困ったことを記憶しています。ここでは、夙川の花見について紹介します。

この花見は、1 期の卒業生が 2 期の卒業生を関西に迎えるにあたって、何か歓迎の会を催したいということで、季節柄もあり花見をすることになり、場所は交通の便利が良い夙川公園（阪急電車の夙川駅から徒歩）が選ばれたのが始まりと聞いています。初回に「毎年 4 月の第 1 日曜の午前 11 時に夙川駅前集合」を申し合わせ、雨が降っても誰かしら集まっています。昭和 45 年からです。広土会全体でみても伝統のある行事の一つと思われます。秋に開催している関西支部総会は休会となることがあっても、夙川の花見は必須という考えを支部員は持っていると思います。残念ながら、平成 7 年の阪神淡路大震災の年は開催できませんでしたが、43 年間続いている行事です。

私も昭和 57 年から 6 割程度参加していると思いますが、この間、他の花見客の若い女性グループと食べ物・飲み物を交換したり、熟年女性のグループと 2 次会を一緒にした方がいたり、雨が降り始めたので蕎麦屋を暗くなるまで貸切ったり、と色々ありました。

写真は、平成 24 年 4 月 8 日の様子です。この日も菅原君が朝早くから場所取りをしてくれたので、駅に近い格好のロケーションで開催できました。

今後も 4 月の第 1 あるいは第 2 日曜日に夙川駅 11 時集合で行いますので、是非ともご参加ください。



近況報告

広島副支部長
橋本 勝司（12期生）

私は昭和 54 年土木工学部卒業の橋本です。現在は広島市水道局に勤務し、早いもので、今年で 34 年目を迎えています。

水道局へ入局した昭和 55 年は、広島市が政令指定都市に昇格した年で広島工業大学からも私を含め多くの学生が採用され、現在も各職場で頑張っています。就職した当時は広島市も好景気の波に乗り、社会経済活動も活発で水需要の伸びも右肩上がりが増えて、それに伴う水道施設の建設等が盛んに進められている時代でした。

その後、長引く景気の低迷や生活環境の多様化等により、水需要も平成 4 年度をピークに減少傾向を続け、料金収入が落ち込む中、水道事業も厳しい経営が続いています。また、昨年 12 月には山梨県にある中央自動車道の笹子トンネル内で吊り天井板落下という痛ましい事故が発生するなど、昭和 40 年代の高度成長期等に建設された多くのインフラ施設の老朽化や経年劣化が、様々な形で市民生活に悪影響を及ぼしています。

今後は、こういった施設の更新をいかに効果的かつ効果的に実施していくかが問われてくることになります。

現在、私は施設部計画課に在職し、多くの職員と一緒に中・長期的な水道施設の更新をテーマにした管理運営計画を策定していますが、今こそ持てる技術を結集してこの難局に立ち向かって行く時だと思っています。

しかしながら、こういった難局に対応していく技術職員についても、将来を担う若手職員が少ないことや、技術や経験豊富な多くのベテラン職員がここ数年間で定年退職を迎えるなど、技術力の低下が大きな課題となっていることから、現在、組織的かつ体系的に技術の継承プログラム導入し、水道局全体で取り組んでいるところです。

さて話は変わりますが、昨年、ひょんなことから、広島工業大学の非常勤講師を私と同期生で現在、西区役所建設部維持管理課勤務の橋本繁典さんの二人で引き受けました。選択科目 2 単位（後期）ですが、工学部都市デザイン工学科 2 年生の「水環境システム」、いわゆる、上下水道工学を中心とした科目です。

当然のことですが、こういった経験は初めてなので、試行錯誤を重ねるとともに、都市デザイン工学科担任の石井義裕教授から適切なアドバイスも受けながらなんとか終えることができました。この講義で人に教えることの難しさを痛感しましたが、母校に少しでも恩返しが出来たことに感謝するとともに、自分の人生の中で貴重な体験をさせていただいたと思っています。

広島工業大学を卒業して以来、ほとんど大学と関わりを持つ機会がありませんでしたが、昨年から非常勤講師や広土会広島支部の副支部長を拝命するなど、微力ながら少しでもお役に立てることができ幸いと考えております。最後になりましたが、広土会の益々の発展と広島工業大学が中国・四国地方の技術の中核を担う大学として躍進されることを心よりお祈り申し上げます。



建設コンサルタンツ協会の社会貢献活動
～自転車まちづくり研究会の活動を通して～

広島西支部
長谷山 弘志（12期生）

「自転車とまちづくり」、ひろしまの街中での自転車の快適環境づくりに向けてどのような社会貢献ができるのか。そのようなテーマを掲げて、自転車まちづくり研究会の活動をスタートさせたのは、平成 18（2006）年 4 月のことでした。

全国の民間建設コンサルタントの多くが所属する一般社団法人建設コンサルタンツ協会の中国支



株式会社 神 崎 組

取締役社長 神 崎 文 吾

本 社

TEL

FAX

支 店

事業所

姫路市北条口三丁目22番地

姫路(079)223-2021(代表)

姫路(079)281-8191

大阪

敦賀・三木・但馬・岩国

総合建設業



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町 1 丁目 1-9

〒730-0805

TEL(082)-232-6471

FAX(082)291-2233

http://www.landingsanyo.co.jp/

明るく伸びる



株式会社 伏 光 組

代表取締役 伏 見 光 暁

本 社

〒734-0013 広島市南区出島 1 丁目33-61

TEL (082)253-6161

FAX (082)254-4581

支店・営業所 松江・三次・安芸高田・東広島

部の技術委員会において、協会員各社から道路分野や都市計画分野を主な専門分野とする技術者が集まり、道路部会なるものを結成しています。この道路部会メンバーによって、協会が目指す社会貢献活動につながる部会活動のテーマについて話し合った結果として、自転車まちづくり研究会なるものを自主活動として立ち上げることとなりました。私は、平成21～23年度の3年間、当部会の代表幹事を務めさせていただきました。現在の研究会活動メンバーは、30名程度ですが、NPO等様々な団体と連携した活動を行うことを活動の目的の1つとしていることもあり、本研究会のコアメンバーには、協会員に属さない方々も少なからずいらっしゃいます。

私自身、かつては、片道1時間を超える典型的なマイカー通勤者でした。標高300mを超える廿日市の旧佐伯町界隈に住む私にとっては、家から会社までの自転車通勤などはとても考えられません。しかし、この活動を進めるうちに、どうしても日々の暮らしの中に自転車を取り入れたい、自転車通勤をしてみたい、自転車の街乗りをしてみたいと思うようになり、やや強引ですが、念願の自転車通勤を実現するに至ったのです。

自宅から廿日市のJR宮内串戸駅までマイカーで約20分、新井口駅までJRで約10分、そして広島市内の会社まで自転車で約25分という所要時間です。お気づきと思いますが、通勤時間は、待ち時間のロスを考えても、マイカー通勤とほぼ同じ所要時間です。また、高騰するガソリン代を削減し、そして、肥満気味であった体重も、3カ月を経過した頃から減り始め、今では標準体重を維持しています。

個人的なプチ自慢になってしまったかもしれませんが、私以外の同じ活動をしているメンバーの多くも、様々な形で意識・行動の変化が起こったのも事実です。

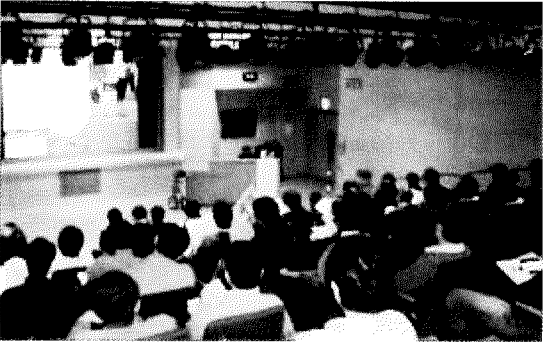
「自転車走行空間の確保」、「総合的な自転車施策の推進」、「自転車事故の減少化」、「自転車交通ルール・マナーの認知」、「自転車利用の利便性向上」などが、自転車政策を進める上での主な課題といわれています。自転車利用の推進には、様々な問題・課題があるもの事実ですが、自転車利用による社会全体の利益は不利益を上回るのも事実です。国内外で様々な自転車施策が、都市・地域のまちづくりの一環として取り入れられて展開さ

れています。

私達が進めてきた自転車まちづくり研究会の活動も、現在、7年目を迎えましたが、「ひろしま自転車トーク」の開催や自転車マップなどの広報ツールづくり、そして自転車イベントなどを継続して展開しながら、広島ならではの「自転車の利用しやすいまち」の実現を願っております。最後になりましたが、母校のますますの発展と同窓会の皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。



広報ツール（自転車マップと下敷き）



ひろしま自転車トークの様子



近況報告

県東部支部 ㈱青木組
名越 勇睦（39期生）

私は、第39期生（平成19年3月卒業）名越勇睦と申します。

広島県尾道市に本社をもつ株式会社 青木組に勤務しております。入社して早いもので、6年が経過しようとしています。会社内の仕事は、土木から営業に異動し、まだ4ヶ月で営業の見習修業中です。

営業という仕事は、奥が深く難しいと感じております。人と接しないと成果を得ることができないわけで、コミュニケーションや人への対応がとても重要になってくると感じます。『人と人が話すことがこれほど緊張・大変』だとはゆめゆめ思

いませんでした。少しでも早く顔を覚えていただき、信頼関係を構築できるよう努力を重ねて行くつもりです。

企業や個人によって営業の手法も異なるとは思うのですが、土木工事の場合、技術や工法だけでなく、環境や安全など顧客からの要望を満足し、求められている事を出来るだけ理解しながら進捗させることが大切だと思います。一人前になるまでには、まだまだ相当の月日と勉強が必要だと痛感させられている次第です。これから、いろいろな人に出会う事ができ、さまざまな知識や経験をすることで、私個人が人間としても、成長できたらいいなと前向きに取り組むつもりです。

おわりになりましたが、広島会皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。

島根県支部だより

島根県支部
角 芳則（43期生）

平成24年11月10日（土）に島根県松江市内にて総会および懇談会が開催されました。

今回は広島工業大学より大東先生にご出席いただき参加者10名でした。

私は、昨年度に大学院を卒業し4月より島根県大田市役所にて勤務しています。

今回の総会には大学の学部生時代にお世話になった松尾徹平さんにお誘いいただき出席させていただきました。初めて出席させていただき目上の方ばかりでとても緊張していたことを思い出します。

原支部長、大東先生のあいさつのあとに懇談会が始まりその場では建設業関係のお話で盛り上がる事ができ、とても勉強になりました。

社会人になり、同じ公務員の方としか深い話をしたことがなかったため貴重な体験になったとともに来年も是非参加したいと思いました。

現在、島根県支部には若年層が少なくなっており出席者の中において25歳の私が一番若く、高齢化が進行しております。島根県支部を盛り上げるためにも、島根県で就職される方には是非出席していただき一緒にお話させていただきたく思います。

今回、総会が開催された松江市は広島市ほどの



ヒューマン・コンシャス。
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA

Architectural Contractors Inc.

 株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町4番25号 TEL082-504-5050
呉本店 / 〒737-0051 呉市中央1丁目6番28号 TEL0823-21-1441
<http://www.masuoka-g.co.jp/>

道路埋設指針 建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



株式会社 マシノ

本社	〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23	(082) 507-2757 (代)
東広島営業所	〒729-2312 広島市豊栄町別府270	(082) 432-4122 (代)
福山支店	〒720-0802 福山市御門町2-5-39	(084) 925-8855 (代)
山口支店	〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130	(083) 973-3533 (代)
山陰支店	〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸188	(0855) 65-0124 (代)
本店	〒699-5133 島根県益田市神田町01615	(0856) 25-2380 (代)
工場	広島・江津・益田	

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



洋伸建設株式会社

代表取締役 木森卓史

本社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
ア・バンビュ・グラントワ-7F FAX(082)511-4521

営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国九州
事業所 黒嶽

大都市ではありませんが島根県では1番大きく宍道湖と山など多くの自然に囲まれた住みやすい都市です。観光資源としては、松江城や堀川遊覧船、また玉造温泉などがあります。

今後、松江尾道線の完成により島根～広島間の交通にかかる所要時間が短縮されますので一度遊びに来られることをおすすめします。

また、今回お越しいただきました大東先生も教子の松尾さんと一緒に松江城・堀川遊覧船・松江歴史博物館に行かれたそうです。

最後になりますが、広土会のご発展と会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



阿讃支部報告

阿讃支部
岡部 正人（13期生）

この度、阿讃支部の忘年会を4人（下記）にて行いました。

- 参加者 阿讃支部長 松山 憲一（第1期卒）
乾 光徳（第8期卒）
矢野光広（第13期卒）
岡部正人（第13期卒）

会 場 高瀬町の鮎駒にて
議 題 阿讃支部の今後の活動について

卒業生の名簿作成（とりあえず、香川県の卒業生の名簿を作成）広土会本部での管理名簿（第1期～第44期）計50名の情報を確認し、定期的に集まって、情報交換をできるようにする。

香川、徳島県の在住の会員の皆様またご連絡を申し上げますので、阿讃支部の集まりにぜひご出席ください。



卒業生だより

土木4期会
40周年記念同窓会

宮田 数行（4期生）

平成24年5月12日（土）17時～
同期29名出席
於：ホテルグランヴィア広島
（JR広島駅新幹線口）

万年幹事？の村上信夫さんから「40周年を記念して同窓会をしよう」の一言から、広島在住の幹事8名で事前の作戦会議からスタート。前回の連絡先リストを基に案内など手分けして比較のスムースに当日を迎えました。

鶴衛学長、鈴木健夫先生、島重章先生をお迎えし、恒例の記念写真撮影から開宴。受付の時から気持ちは40年前と変わらない若さでいっぱい。後日、送られた写真を見て年齢を感じたことでしょうか、この日ばかりは満面笑みでバチリ。

鶴学長、先生方からのキャンパス紹介、近況紹介が始まり、出席者全員の簡潔なスピーチで指名方式。しかし随所でQ&Aも割り込まれ、指名待ちの未登場者も含めて盛り上がります。今回、同期会に初めて出席された方も多くおられて、40年ぶりの再会を喜び合った同期も沢山おられました。“初参加、待っとなります！”

60歳をちょっと過ぎた同期、仕事に精出す現役者がほとんどで、まだまだ家の中で隠居する気配が感じられません。しかし、「5年サイクルの同窓会は長いので毎年やろう」とか「早寝の者には夜も辛くなるので昼食会にしてもエエかも」の還暦を無事迎えたベテランらしいグッドアイデアも出ました。確かに、同期生の中にはアルコールの苦手な方、交通機関の不便な方もおられるので、歓談重視の昼食会も開催したいものです。

広島在住の万年幹事は段取りが楽なので、今回も広島市でやりました。長崎県、高知県、鳥取県など遠くからのご参加は本当にありがたいことです。広島市以外での開催の機会が必ずやあることを願っています。

このたびは、ご多忙中ご出席くださいました鶴学長、また毎回時間を割いてご出席くださる鈴木先生、島先生ありがとうございました。“4期会次回もお待ちしています！”



5期生40周年同期会

実行委員長
奥山 進（5期生）

工大5期生は昭和48年に学生生活に別れを告げ、社会へと巣立った世代です。

卒業時点は、日本の高度経済成長（1955年～1973年）にかげりが出始めた時期でした。また団塊世代後半の若者でした。

幼少時代は、1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万博を学生時代に経験し、まさに「ひかりは西へ」という新幹線が博多へと延びている最中に卒業し、意気揚々と技術者の仲間入りを目指した面々でしたが……

時代の変化、環境の変化に即応しながら20代、30代、40代、50代と先輩達と後輩達とともに、主に建設業界の中で生きてきてやや頭も薄く、白髪も混じり人間的に丸くなりやっと卒業40周年を昨年迎えました。

卒業してからも度々広島県内もしくは近県の連中でゴルフを楽しんでいたわけですが、誰となく同期会を還暦でやるかそれとも40周年でやるかということからスタートしました。

30周年をやった経験則から市内在住の石浦、奥山、鍛冶中、倉本、坂本、高橋、寺本、中尾、中常、仁井田、平田（学生番号順）の11名による準備委員会が発足しました。

30周年時の名簿を基に連絡先を委員で分担し再整備から始めたところ既に定年を迎えているために其の当事とは様変わりし全員の住所を把握することが出来ませんでした。

書面をお借りしてお詫び申し上げます。
開催場所は30周年と同じ広島駅前のホテルセンチュリー21、日時は10月27日（土）を決め、詳細な打ち合わせを数回重ねながら諸先生は鈴木健夫、島重章、伊藤秀敏先生と浅野仁司先輩をお招きし、39名の同期が遠くは埼玉、鹿児島から集いました。

島先生の挨拶に始まり、鈴木先生の乾杯音頭を聞くに付け、同期の連中の顔は明らかに学生時代の思い出をめぐらしていたと確信します。

懇親会に移り、各テーブルは和やかな雰囲気です盛り上がりました。

最高潮に達したのは、元応援団員による児玉信二さんのエールで全員での工大節の合唱でありました。

総合司会の鍛冶中さんより『50周年は2022年（72歳）に、皆さん元気に会いましょう』のエンディングで会場を後にしましたが、エントランス付近では、『72歳は遅すぎる！生きてうちに65歳や！！』との声が響いていました。

幹事の石浦さんが手配した2次会へ約6割の仲間たちが流れまたまた盛り上がりましたことは

言うまでもありません。

最後に集合写真を撮影していただきました中尾さん、お元気にお越しいただいた先生方、先輩に感謝申し上げます。



7期生の還暦の会

堀内 眞（7期生）

平成24年度。私たち7期生も還暦を迎える時期が来ました。（すでに還暦を迎えた者もありますが）他人事のように思っておりましたが、事実は事実でした。

工大を出て38年、色々ありましたが、何とかここまで頑張っております。

7期生の還暦の会の発案は、いつもの5人（大石、大利、小林、堀内、藤光）です。

10月に集まり、皆を集めて楽しく飲もうということになりました。ただ、体力が少々落ちていきますので、2名（藤井、松原）の応援を求め、快

諾を得た次第です。

目標、役割分担を決めました。

目標は『工大の近くで、昔を振り返り楽しく語ろう（宴会、宿泊、ゴルフ、記念品は予算2万円以内）』としました。

幹事は計8回集まり、酒を飲みながら時間をかけて練った結果、行程は次のとおりです。

◎4月29日（日）

15：00 工大集合 1号館前

16：00 工大→神田山荘へ移動
（乗り合わせ）

17：00 宴会開始

20：00 閉会

◎4月30日（月）

9：30 ゴルフスタート

（宮島カントリー倶楽部）

16：00 散会

29日の工大は、幸運にもオープンキャンパスでした。先生方にもお会いでき校舎も隅々まで拝見できました。新校舎にも目を見張った者も多かったはずで

す。平成17年に植えた卒業30年記念のクロガネモチも大きくなっていました。時間は確実に経過していると感じたのは私だけではなかったと思います。

18時から、神田山荘で宴会です。鶴学長、恩師の鈴木、島先生、卒業生35人。大利の司会で盛り上がりました。途中、各自近況を述べましたが、人生いろいろです。顔、体型の変化もメチャクチャです。でも、皆いい味です。

ただ、門限が21時のためネオン街への2次会は断念です。4人部屋に全員集合し、時の経つのも忘れて語り尽くしました。もちろん酒、つまみは持ち込み、2万円の壁へ飽くなき挑戦でした。

翌日は雨中のゴルフになりました。宴会疲れもありスコアそっちのけで珍プレー続出でしたが、母校の雄姿を山の上から眺めながらのプレーは感慨深いものです。

29日、30日の2日間、本当に至福の時でした。

我々が、今日こうしておれるのも、工大で鍛えていただいたお蔭です。深く感謝するとともに、母校の今後益々のご発展をご祈念致します。

7期生の皆様、記念品の《三原達磨》のように七転び八起きで元気に生きていきましょう。5年後の再会でまた元気な笑顔を見せて下さい。

幹事のみなさん、お疲れさまでした。次も頑張りますか？！

幹事 大石 光司 大利 正生 小林 俊三
藤井 昇 藤光 孝司 堀内 眞
松原 弘



広土会45周年記念事業

- ・開催日：平成25年8月31日（土）
- ・会費：10,000円（4月末よりチケット販売予定）
- ・場所：リーガロイヤルホテル広島

☆1期から45期までが各期のテーブルに集まり、各卒業期の同窓会を行います！



事務局だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願い致します。

今年度は広土会創立45周年記念祝賀会が開催されます。退職された先生方にもお声をかけ、楽しいひとときを過ごせるよう企画しております。会員の皆様もお声を掛け合い、多くの皆さんの参加を期待しております。

また、広土会新聞は会員の情報誌です。今年度は、5期生－40周年、15期生－30周年、25期生－20周年、35期生－10周年を迎えます。記念祝賀会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。

FAX（082）921-8976

E-mail：kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp